

※ 緑文字は職員へのアンケートを実施して成果を検証するものです。同様に、青文字は児童生徒へのアンケートで、赤文字は保護者へのアンケートで成果を検証します。

平成29年度 西都市立三納小中学校自己評価書

【評価基準】 4～期待以上 3～ほぼ期待どおり 2～やや期待を下回る 1～不十分

領域	評価項目	区分	評価指標または数値目標	結 果	学校の自己評価と改善策	自己評価		学校関係者評価委員のコメント	評価
						指標別	総合		
I 確かな学力の定着	① 学習指導の工夫改善	共	a 4つのチェックポイントを意識した日常の授業の改善を図る。 b 学習規律の安定の図られた授業を実践する。 c 授業が「わかりやすい」「楽しい」と答える児童生徒を70%以上にする。 d 「家庭学習の手引き」を活用して、毎日家庭学習をする児童生徒を90%以上にする。 e 乗り入れ授業の実施により、中1ギャップをなくす。	a 4つのチェックポイントを日常の授業で意識しながら実践できた。 b 概ね良好な状態にある。 c 良い結果であった。 d 手引きを活用しながら家庭学習をしている割合は少ないが、手引きを意識しながら取り組んでいるようである。 e ギャップは皆無である。	a 引き続き日常授業の改善を各職員が意識しながら授業を実践していく。 b 個別に支援を要する児童生徒に対して、引き続き機会を見て声をかけたり保護者と連絡をとりあったりしていく。 d 評価指標の文章表現を「活用して」から「意識して」または「理解して」と変更するよい。	3.10	3.08	総合学力調査の結果、全学年の平均でみると、小学部は全国平均並みで中学部は全国平均を大きく上回っている。小学部は昨年度の結果と比較すると全校で12ポイント(学年平均で2ポイント)向上しているの、日常の授業の充実が学力向上につながっていると感じる。	4
		小	f チャレンジタイムを活用して、基礎的・基本的な学習内容の定着を図り、学力調査等で、全国平均以上にする。 g 五七五集会を充実させ、宮日こども新聞に投稿する。	f 総合学力調査の結果がまだ出していない。 g 集会の形式を変え、一人一人に活躍の場を増やせた。新聞への投稿はできていない。	f 総合学力調査の結果が出ていないため、全国平均以上かどうかは分からないが、各学級ともにチャレンジタイムに学習内容の習熟を図ることができた。 g 機会を見て投稿していく。	2.75			
		中	h 全国や県、西都児湯地区で行われるテストにおいて、管内上位にする。	h 1・2年の実力テストの結果がまだ出していない。総合学力調査の結果も出ない。	h 結果が出次第、改善策をたて次年度の指導へとつなげていく。				
	② 視聴覚教育・図書館教育の充実	共	a 授業で、パソコンや大画面テレビ等の視聴覚機器を活用する。 b 教室内や廊下等の掲示物を充実させる。 c デジタル教科書を効果的に活用するための研修会を実施する。	a ほとんど職員が視聴覚機器を活用して授業を行っている。 b 掲示物は計画的に貼り換えている。 c 実施できていない。	c 業者に依頼し、効果的な活用の仕方を研修していく。	3.15	2.78	親子読書の家庭での評価が66%になっている。親子で同じ本を読んだり、同じ時間を共有したりして読書に親しむことはまだまだ難しい状況にあるが、目標値に着実に近づいていると感じる。今後も読書活動の充実を図るとともに、保護者への啓発も継続して行ってほしい。	3
		小	d 毎月の貸出状況の集計結果を活かして、読書活動を推進する。 e 親子読書に取り組む家庭を70%以上にする。	d 月ごとの集計を各学級に配付した。それを元に貸し出し冊数を伸ばすようにした。 e 親子読書70%には達していない。	e 学級通信などで意識の継続を図っていく。	2.56			
		中	f 各自が1か月に1冊以上の本を読む。	f 全体的に読書量に個人差がある。	f 読書週間には必ず本を開く習慣を身に付けさせる。	2.47			
	③ キャリア教育の推進	共	a ふるさと学習(さいと学)を充実させる。 b 地域の自然や文化的素材、人材を教育活動に積極的に活用する。 c キャリア教育の研修を計画的に実施する。	a 中学部は職場体験を小学部はさいと学を各学年が計画的に実施できた。 b 中学部は史跡探訪を小学部はネイチャーゲームをそれぞれ計画的に実施できた。 c 実施できていない。	b 地域の人材が高齢化しており、新たな人材開発が必要である。 c 日々の授業実践の中でキャリア教育を視野に入れた実践をしていく。	2.95	2.90	小学部はウォークラリー遠足、昔の遊びをする会、竹細工づくり、昔の話を聞く会、中学部は職場体験学習、三納史跡巡り等、様々な行事で学校と地域が力を合わせて教育活動に取り組んでいる。地域の高齢者も学校の教育活動に参加することに喜びを感じている。今後は、協力者を固定化せず、まずは、児童生徒と一緒に暮らしている祖父母にも協力を呼びかけ、家庭の絆、地域の絆を深めていく。	4
		小	d 係や委員会活動ができているという児童を80%以上にする。 e 家での手伝いができているという児童を70%以上にする。 f 将来の夢や希望をもって学習や生活に取り組んでいるという児童を80%以上にする。	d 達成している。 e 達成している。 f 達成している。		3.47			
		中	g 外部講師による講話等を組み入れ、進路指導を充実させる。	g 実施できていない。	g 卒業生のお話を聞く機会は設けているが、礼法指導や面接指導など、計画的に実施できるようにしていく。	2.32			

*斜体になっている評価指標は今年度変更した点